

**【事務事業調査】**

事務事業名	赤ちゃん訪問事業費		予算科目 コード	会計 - 款 - 項 - 目 - 事業
				001-040102-003-02-01
担当部署	健康福祉課	担当	健康づくり担当	事業の分類
		サブリーダー	田中圭子	
				新規事業

**事務事業の概要**

	何をどのような方法で実施します(実施しました)か?	どのような成果が現れます(現れました)か?
計画	生後4ヶ月児までの乳児宅を訪問し、母子の健康状態、家族の育児不安を観察する。生後28日までの新生児は助産師が、それ以後は保健師又は看護師が訪問する。出生時に新生児訪問のお知らせを配付し希望者は申し出てもらう。28日以後希望がない家庭へは訪問する旨の往復はがきを郵送し、全児を訪問する。訪問が成立しない場合は、予防接種や健診時に状況を把握する。(こどもみらい課児童福祉担当の次世代育成事業の「こんにはあかちゃん事業」と連携)	実際に母子の顔や生活状況を見ることにより、児の発育状況・母の産後うつの有無・家族の育児不安や養育力不足を把握することが出来、早期に援助をすることができる。早期に援助をすることにより虐待防止へとつながる。
実績	出生時に赤ちゃん訪問についての案内を配布し事業の周知を行った。訪問希望の連絡があった場合は、助産師が訪問を実施。訪問希望のなかった家庭へは、電話連絡にて赤ちゃん訪問の趣旨を説明し、訪問の了解を得る。状況に応じて助産師、保健師、看護師が訪問。こころのチェック票の回収、予防接種のお知らせの配布、育児に困難な状況がないかどうかの確認に加え、助産師、保健師の訪問時は計測や健康状態の確認を行った。長期の里帰りや低体重での出生等で生後4か月までに訪問が実施できなかった家庭もあったが、電話で話をしたり、4か月児健診で面接をしたりして、全数把握することはできた。また、継続してフォローが必要な児はこどもみらい課と連携し経過を追うことができた。	エジンバラうつ病評価尺度を用いての心のチェックによって母が自分のこころの状態を客観的にみることができ、早い段階でフォロー体制が整えられた。育児支援事業を早期から紹介することができ、つながりやすくなった。4か月健診においてこころの状態が「良い」と答える割合が増加した。

**活動指標**

指標	目標値	達成値	特記事項
訪問件数	340件	283件	訪問対象321件のうち訪問が成立したのは283件(88.2%)訪問ができなかった38件は、不在24件、訪問待ち2件、県外里帰り中1件、保健センターで面接5件、転出6件。不在24件へは、予防接種のお知らせと不在票を家庭へ届け、電話連絡をもらうようにしたところ、19件は電話連絡があり、状況の把握はできた。残り5件は4か月児健診で確認。全数訪問はできなかったが、何らかの形で状況の確認はできた。

**事業費(計画)**

細 節	金 額
1 賃金	714,000
2 消耗品	68,000
3 通信運搬費	30,000
4 委託料	336,000
5	
6	
7	
8	
	1,148,000

**事業費(当初予算)**

細 節	金 額
1 賃金	722,000
2 消耗品	68,000
3 委託料	336,000
4	
5	
6	
7	
8	
	1,126,000

**事業費(実績)**

細 節	金 額	特記事項
1 賃金	713,160	
2 消耗品	67,157	
3 委託料	352,800	
4		
5		
6		
7		
8		
	1,133,117	

**事業経費**

		計 画	実 績	特記事項
予 算	当初予算額		1,126,000	
	補正予算額			
	流用額		17,000	助産師訪問希望増のため
	予算現額		1,143,000	
決 算	決算額		1,133,117	
財 源	国庫支出金			
	県支出金			
	地方債			
	受益者負担金			
	その他の特定財源			
	計	0	0	
	差引(一般財源)	1,148,000	1,133,117	